

循環器病臨床医学研究所

1. スタッフ

所長（教授） 藤田 英雄
副所長（教授） 木村 直之
各診療科の研究者（各科の紹介欄を参照）

2. 診療科の特徴

循環器病臨床医学研究所は当センターにおける医学研究推進のために設立された。現在の研究所は、2014年7月に管理研究棟の竣工に伴い、その6階と7階に機能が集約された。循環器病臨床医学研究所の基本は、当センター診療部門と同様に、各診療科の垣根を作らず、各分野の研究者が自由に情報交換を行い、お互いに協力しながら相乗的研究成果を上げることを目指している。よって、本研究施設のもっとも特徴的な点は、研究室に存在する多くの機器がすべての科によって共有で管理・運用されていることである。研究領域としては動脈硬化、炎症、高脂血症、移植免疫、がん病態、糖尿病、網膜症、脳血管疾患、遺伝子解析など、医療に関わる多くの分野の臨床および基礎研究が行われている。生化学、細胞培養、分子生物学、免疫学、免疫組織学、生理学の一般的実験設備の他、P2レベルの遺伝子組換え実験室、小動物の環境制御飼育施設を有している。当センターに関係する研究者の研究の場として、本研究の特徴を最大限に生かして研究成果を上げることができる研究環境を提供できる施設である。

現在、医師・スタッフ15名、大学院生10名、研究補助員10名を含め、常時30名以

上の関係者によって研究活動が行われている。

3. 実績・クリニカルインディケーター

実験室内での病原微生物の安全取り扱いに関するWHO（世界保健機関）の指針（バイオセーフティ指針）で定められているバイオセーフティーレベル2の基準を満たすように整備を行ってきた。さいたま医療センター循環器病臨床医学研究所の構造を配慮にいたした実験室マニュアルを整備し、安全調査（実験室点検）を定期的に行っている。研究所内で行われている各科毎の研究テーマは、各科の掲載欄を参照していただきたい。

4. カンファレンス

学生や若手研究者は各々各所属科で指導者とカンファレンスを行い、また研究所として年2回の研究発表を中心としたカンファレンスも行っている。また、審議すべき重要な案件が生じた場合には、関係者と会議を行っている。

5. 研究・学会活動

研究・学会活動の実績は、それぞれの研究者が所属する科に掲載されているために、ここでは省略する。

6. 事業計画（達成度と次年度への目標）

当センター総合医学1および2に所属するすべての診療科の研究者が一つの共同スペースでそれぞれの研究テーマに則って計

画・立案・実行していく現行のスタイルを維持発展させ、多くの研究者が情報交換をしながら高度な研究実績をあげることのできる環境をさらに整備していく。

研究室の運用はWHOのバイオセーフティー指針を順守して行っている。研究所内での作業ルールや緊急時の行動マニュアルを整備しているが、今後も研究者全員に周知徹底できる取り組みを継続する。

全般について、地域における病診連携をさらに充実していきたい。また、レジデントの教育についても、専門的診療手技への早期からの参加なども含めて、レジデントがさらに魅力を感じられるものとしていきたい。